

れきはく NEWS

vol.57
2023.OCT

島根県立古代出雲歴史博物館の
旬な話題や情報をお届けします

Shimane Museum of Ancient Izumo

企画展

「伊勢と出雲」特集号

CONTENTS

- 2 企画展「伊勢と出雲」
- 5 れきはく通信
- 6 イベントのおしらせ

夕日の沈む聖地、八雲立つ出雲

出雲

IZUMO

と

伊勢

ISE

朝日の昇る聖地、神風の伊勢

【企画展】

令和5年 10/13(金) - 12/10(日)



夕日の沈む聖地、八雲立つ出雲

出雲

IZUMO

と

伊勢

ISE

朝日の昇る聖地、神風の伊勢

令和5年 10/13(金) - 12/10(日)

開館時間/午前9時～午後6時(10/31まで)・午前9時～午後5時(11/1から)【10/13は特別展示室のみ10時開場】
会期中の休館日/10/17(火)、11/7(火)、11/14(火)、12/5(火)

「朝日の昇る聖地、神風の伊勢」と「夕日の沈む聖地、八雲立つ出雲」

対比的にとらえられることの多いこの二つの地域は、神話や古代史上の特別な土地と考えられてきました。そのような地域像には、伊勢神宮と出雲大社の存在が大きく影響しています。江戸時代、その信仰は御師による布教活動によって全国に広まり、庶民にとって憧れの参詣地となりました。

本展は、両地域の歴史的風土に焦点を当て、伊勢神宮・出雲大社の祭儀の歴史をひもとき、さらに近世の参詣文化に着目することによって、今日に引き継がれる聖地としての伊勢像・出雲像が全国に広まって行く過程にせまります。



重要文化財 伊勢神島祭祀遺物「画文帯神獸鏡」八代神社蔵

序章 神話が語る、鎮座の由来

出雲大社と伊勢神宮の創祀・鎮座をめぐる経緯は『古事記』『日本書紀』に語られています。ここでは神話絵画を通して、出雲大社創建の契機とされる「国譲り」のストーリーや、伊勢の地に天照大神が鎮座することになった倭姫命の巡行ルートなどをわかりやすく紹介します。

第1章 聖地の黎明

大和からみて出雲が日の沈む方角の遠い異世界であるのに対し、伊勢は日の昇る方角に隣接する、地理的に近い国でした。第1章では考古資料を中心に展示し、両地域の地理的特質を明らかにします。なかでも、伊勢から東海へわたる海上の孤島、神島での祭祀で捧げられた品々は必見です。

第2章 古代祭祀の世界

律令国家が誕生する7・8世紀。この頃、伊勢神宮の祭祀について細かく規定が設けられました。延暦23(804)年の『儀式帳』は、古代伊勢神宮における祭祀の実像を伝える、極めて重要な史料として知られています。一方の出雲も、国造が宮中で神賀詞^{かんよごと}を奏上する儀礼をおこなうなど、特別な性格を帯びていました。本章では、伊勢神宮に伝わる貴重な史料や、斎宮跡からの出土品などを用いて、古代祭祀の世界にせまります。



重要文化財 羊形硯 斎宮歴史博物館蔵

第4章 信仰と参詣文化

江戸時代には約六〇年ごとに「おかげ参り」と呼ばれる突発的ブームが起り、全国から熱狂的な大群衆が伊勢に押し寄せました。庶民にとって伊勢参拝はあこがれであり、「伊勢に行きたや伊勢路が見たや、せめて一生に一度でも」と歌われたのです。伊勢信仰を全国に広めたのは御師(おんし)と呼ばれる神職層でした。伊勢の御師は出雲でも配札をおこなっており、伊勢信仰は出雲国内にも広く浸透していきます。

一方、伊勢神宮と比べてはるかに規模が小さいとはいえ、出雲大社でも御師(おし)と呼ばれる中級神職たちが存在していました。彼らは全国に壇所をもち、出雲大社の神徳を広く説いてまわったことで、その信仰が全国区に押し上げられた、ということが出来ます。今回、あまり知られていない出雲の御師たちの活動にスポットを当てることを試みました。また錦絵・絵図などを中心に、おかげ参りや伊勢信仰の展開を読み解いていきます。

第3章 造営と遷宮

伊勢神宮では20年に一度、社殿を新造し、御装束神宝を新調する式年遷宮がおこなわれます。その第一回は持統天皇4(690)年のこととされています。鎌倉・室町時代には長期の途絶があるなど様々な変容を経ながら、現代に継承されてきました。ここでは式年遷宮ごとに新しく調進される御装束神宝の仕様図や、遷御の儀を描いたカラフルな絵巻を通じて、神宮式年遷宮の具体像を見ていきます。



豊受大神宮遷御之図 神宮文庫蔵



永久四年遷宮外宮装束之図 神宮文庫蔵



伊勢両宮曼荼羅図 神宮徴古館蔵

第5章 伊勢と出雲を結ぶ人

江戸時代、神道思想や国学といった学問において、伊勢と出雲は特別な場所と捉えられています。両地域を結ぶキーパーソンの活動によって、伊勢と出雲は接触し、聖地としての地域像をさらに増していくことになりました。大国主神の鎮まる出雲が神国として特別な地である、という認識は、このような伊勢との接触などを通じて育まれていったのです。本章では、神在月や縁結びといった、今日広く知られている出雲像が広まり定着していく様子を見ていきます。



黒澤石齋肖像画 個人蔵

今回、伊勢神宮(神宮司庁)はじめ三重県内各機関のご協力により、伊勢の歴史文化を物語る多くの考古資料、文献史料、絵画資料の展示が実現しました。そのほとんどが島根県内初公開となるものです。目で見て楽しめる、絵画資料もたくさん準備しました。神在月の出雲で、神々の地、伊勢と出雲の世界に触れていただきますよう、ご来館をお待ちしております。

関連講座 オンラインで同時配信

1.古代における伊勢と出雲の祭り

10月22日(日) 13:30~15:00

講師:塩川哲朗氏(皇學館大学神道研究所)

2.伊勢神宮創祀を考古学から探る

10月29日(日) 13:30~15:00

講師:穂積裕昌氏(三重県埋蔵文化財センター)

3.神話の出雲と歴史の伊勢

~奈良時代の人々はどう見ていたのか~

11月12日(日) 13:30~15:00

講師:榎村寛之氏(三重県立斎宮歴史博物館)

会場/講義室 定員/各回60名(要事前申込) 参加無料

ギャラリートーク 担当学芸員による展示解説

日時:10月21日(土)10:00~11:00

11月4日(土) 14:00~15:00

11月25日(土)14:00~15:00

12月3日(日) 14:00~15:00

定員/各回20名(要事前申込) ※各回とも同じ内容です

■参加には企画展観覧券もしくはミュージアムパスポートが必要です。

■当日は集合時間までに特別展示室入口付近にお集まりください。

■関連講座・ギャラリートーク共通

【お申し込み方法】電話・FAX・ホームページのイベント参加フォーム(しまね電子申請)のいずれかで事前にお申し込みください。

【お申し込み先】

TEL.0853-53-8600 FAX.0853-53-5350

<https://www.izm.ed.jp>

※【個人情報の取り扱いについて】この申し込みによって収集した個人情報は、島根県の規定に従って取り扱い、お申し込みいただいたイベント開催の目的にのみ利用するほかは法令に定めがある場合を除いて、第三者に提供することはありません。

奈良県立万葉文化館・三重県立斎宮歴史博物館・島根県立古代出雲歴史博物館 三館連携シンポジウム

語り継がれる記紀万葉

令和5年11月19日(日) 13:30~17:00 ※開場13:00 会場:大社文化プレイスうらら館だんだんホール

奈良県立万葉文化館、三重県立斎宮歴史博物館および島根県立古代出雲歴史博物館は、平成25年3月に「古事記」「日本書紀」および「万葉集」を活用した文化交流協定を締結し、連携した取組を行っています。これまで、平成25年度以来各県持ち回りで、三館連携シンポジウムを開催してきました。

令和5年度は第6回目として、大社文化プレイスうらら館だんだんホールで、三館の学芸員・研究員による講演会を開催します。

10月13日から開催される古代出雲歴史博物館企画展「伊勢と出雲」に関連し、各施設にちなんだ「万葉集」や「日本書紀」、「古事記」をテーマに講演いただきます。

スケジュール

13:30~ 開催挨拶

13:35~ 趣旨説明

13:50~ 三館紹介①奈良県立万葉文化館の魅力

14:00~ 講演「本居宣長と『万葉集』—飛鳥・藤原をめぐる—」

阪口 由佳 氏(奈良県立万葉文化館主任研究員)

14:50~ 三館紹介②三重県立斎宮歴史博物館の魅力

15:00~ 講演「中・近世の伊勢神宮信仰と斎宮の位置付けについて」

榎村 寛之 氏(三重県立斎宮歴史博物館学芸員)

※15:50~ 10分間の休憩

16:00~ 三館紹介③島根県立古代出雲歴史博物館の魅力

16:10~ 講演「近世以降の幽と顕をめぐる」

品川 知彦 氏(島根県立古代出雲歴史博物館学芸部長)

17:00~ 閉会

定員:600名(先着順) 参加費:無料 当日はオンラインで同時配信
会場・オンラインとも、事前申し込みが必要です

【お申し込み方法】電話・FAX・ホームページのイベント参加フォーム(しまね電子申請)のいずれかでお申し込みください。

※FAXの場合は郵便番号、住所、氏名、電話番号、参加人数を記入、「三館連携シンポジウム申込」と明記のうえお申し込みください。

【お申し込み先】島根県立古代出雲歴史博物館

TEL.0853-53-8600 FAX.0853-53-5350 <https://www.izm.ed.jp>



※【個人情報の取り扱いについて】この申し込みによって収集した個人情報は、島根県の規定に従って取り扱い、お申し込みいただいたイベント開催の目的にのみ利用するほかは法令に定めがある場合を除いて、第三者に提供することはありません。

旅人気分ででかけよう～「誕生、隠岐国」展

コロナが収束し、今年も多くの旅人が島へ向かっています。隠岐もまた、「ホテルの予約がとれない隠岐」に戻りつつあるようです(学芸員も出張のタビに四苦八苦…)。この展覧会では隠岐をメインに、日本のさまざまな島の古代にふれていただきます。島旅を楽しむ気分で、会場へお出かけください。

「誕生、隠岐国」ツアーの出発地は朝鮮半島。「魏志倭人伝」よろしく対馬、壱岐へと走ります。

対馬の遺跡に残されたのは、朝鮮半島文化の香

りを感じさせる韓国系遺物。東アジアの海を往き来した古代対馬びとの姿に、「南北市糶」の言葉が思い浮かびます。しかし大和政権と新羅の対立のなかで、新羅国と対峙する日本側の最前線、「国境の島」「要塞の島」に変貌していきます。

九州北部を揺るがした「磐井の戦争」で、壱岐の首長は大和政権の側にたって活躍し、急速に力をつけました。壱岐の大型古墳には、大和政権が壱岐の首長を重視して贈った数々の「お宝」が遺されました。今なお見るものの目を射る強い輝きを放ちます。

そして隠岐へ

地域社会の形成と国家形成のなかで

朝鮮半島から少し離れた隠岐は、対馬、壱岐とは少し異なる歩みを辿りました。

古墳時代の終わり頃には、古代の「周吉郡」「穩地郡」「知夫郡」「海部郡」のもとになる地域共同体と、それを束ねる首長が成立し、各島に大型古墳が築かれます。

古代隠岐の社会は、島を包む海を通して、西は九州から東は大和まで、様々な地域とのつながりを持ちました。首長が葬られた古墳のお供えにも、さまざまな地域のものが混在します。なかでも、伯耆、因幡など鳥取県域、さらに大和とのつながりを強められていきます。大和政権と直結するミヤケが設定され、首長はミヤケの総元締めとして島を支配しつつ、大和政権の支配下に入り、後の律令体制下では国家の役人に転身していきます。

大和から見れば、隠岐は海の幸の宝庫と写ったでしょう。海の民が葬られた横穴墓から見つかる畿内産の「赤いうつわ」は、隠岐と大和のつながりが地域ぐるみのものであったことを物語るようです。大和政権に海の幸をミツギモノとして納めた人々は、律令体制「隠岐国」の「公民」「五十戸」へと編成替えされていきました。民が国家へ税を納める時代が始まったのです。都に残された海産物の



高津久横穴墓群 (知夫村)

荷札には、納めた人の住む地域や名前まで記され、国家にしっかり組み込まれた隠岐の姿がうかがえます。

本展では、隠岐から送り出された海の幸の荷札などの資料から、海産物を都へ送り出し、巨大組織化した律令国家の「食」を支えた古代隠岐びとの姿が浮かび上がります。

企画展 誕生、隠岐国

令和6年3月22日(金)～5月19日(日)

秋の1日を“まるっ”と博物館で楽しもう！

れきはく

秋

まつり
2023

2023/11/5日

午前10時～午後3時

風土記の庭、エントランスホール、講義室ほか

まるっと
1日

神楽の日

出雲神楽 &
太鼓

出演団体
出農太鼓部
宇那手神楽保存会
市森神社神楽保持者会
赤塚神楽佐儀利保存会

場所:風土記の庭特設ステージ

時間:午前10時30分～午後3時

共催:出雲市無形文化財連絡協議会



出農太鼓



宇那手神楽保存会



市森神社神楽保持者会



赤塚神楽佐儀利保存会

近隣博物館・美術館の楽しい体験コーナーや
美味しい屋台コーナーなど盛りだくさん！

れきはく新年まつり

2024年1月1日(月)～3日(水)

午前10時～午後3時 会場:風土記の庭

たこあげ、はねつき、こままわしなど

正月遊びを楽しもう



お知らせ 2023年10月より休館日が毎月第1・第3火曜日になりました。(変更になる場合があります。)

どこ行く? れきはく!

発行/令和5年10月



島根県立古代出雲歴史博物館
Shimane Museum of Ancient Izumo

〒699-0701 島根県出雲市大社町杵築東99-4
TEL.0853-53-8600代 FAX.0853-53-5350
[URL]https://www.izm.ed.jp [E-mail]contact@izm.ed.jp
開館時間/9:00～18:00(11月～2月は9:00～17:00)
休館日/第1・第3火曜日(変更の場合有り)



マスコットキャラクター
雲太くん



マスコットキャラクター
出雲ちゃん